

静岡地質情報展と移動地質標本館

青木正博¹⁾

移動地質標本館とは

地質標本館の館外活動を移動地質標本館と呼んでいます。たとえば、産総研地域センターの一般公開、地質調査総合センターの実施する地質情報展、全国各地の自然博物館の企画展などにおいて、地質標本館の所蔵標本を展示したり、開催場所ごとに市民ニーズに合わせた情報の提供を行っています。このたび開催された「静岡地質情報展」においては、「地質なんでも相談」、「岩石鉱物化石なんでも鑑定」、「静岡県産の鉱物・鉱石・化石標本展示」のコーナーを設け、3日間にわたって新旧地質標本館長、地質相談所長、標本館リサーチャーのほか、数名の研究者が対応に当たりました。ここに、その様子をご紹介しますとともに、市民の皆さんから寄せられたご質問・ご要望のほか、担当者が気づいた改善点などをとりまとめ、次回以降の教訓としたいと思います。

華麗な壁面デザインと標本展示コーナー

今年の会場は広くて天井も高いイベント施設でした。見通しの効く会場では、入場者の要求水準も高くなります。そのことを意識して、どのコーナーでも例年より大きく美しい展示パネルが準備されました。中でも特に注目を集めたのが移動地質標本館のコーナーでした。地質なんでも相談コーナー、標本展示コーナーの壁一面に、美しい鉱物のクローズアップ写真が貼られ、華やかな雰囲気を醸し出しました(写真1)。形のおもしろさ、色の鮮やかさを主眼に選ばれた鉱物標本が17種、90cm×90cm大の写真になりました。表示倍率は



写真1 壁面を埋めた鉱物標本のクローズアップ写真パネル。



写真2 移動地質標本館の展示コーナー、手前にはさまざまな大型標本を展示しました。

20倍強といったところでしょうか。この大胆で華麗なデザインは次回以降の目標となることでしょう。

標本展示コーナーには、静岡県ゆかりの化石、鉱物、鉱石標本がガラスケースの中に並べられました(写真2)。また、机の上には持ち上げられないほ

1) 産総研 地質標本館

キーワード: 移動地質標本館, 地質なんでも相談, なんでも鑑定, 静岡



写真3 標本をさわられるコーナーで標本を観察する参加者。

どの大型標本が置かれ、自由にさわっていただけるようにしました(写真3)。皆さんが地質標本でどのように遊ぶか、端で拝見させていただきましたが、なかなか印象深い物がありました。どなたも、まず目で形と色を識別しようとするのはもちろんですが、それに留まらず、指先で撫でながら皮膚感覚を通して材質感を捉え、パンパンと叩くことで密度を感じとろうとしているように見うけられました。見事な標本を自由にさわらせる施設は一般には希なためでしょうか、最初はこちらの視線を気にしながらおそるおそる手を出していた来場者が、私たちの意図を理解するや、次第に大胆になり最後は確信に満ちて叩くほどになります。自由にさわること地質標本への親しみが増し、観察にも気合いが入ったのではないのでしょうか。百聞は一見に如かず、十見は一触に如かずです。移動地質標本館では、今後も“さわる”コーナーを定番にしたいと思います。

地質なんでも相談

なんでも相談コーナーには、横長の平机を1台置き、机を挟んで相談者と説明者がそれぞれ2名づつ向かい合って座りました(写真4)。地質標本館館長が、鉱物・岩石・地下資源・地下水・軟弱地盤を、地質相談所長が、地質・堆積岩を、そして標本館リサーチャーおよび地質標本研究グループ員が化石に関する相談に当たりました。また、火山噴火に関する話題については、同じ会場で他の展示物の説明を担当していた火山活動研究グループ員に応援して頂きました。その場で回答しきれない質問



写真4 新旧地質標本館長による地質相談。

については、ご要望を詳しく伺った上、後日、電子メールや郵便で情報を提供しました。小学生から約80歳まで、幅広い年齢層から寄せられた相談は全部で26件に達しました。この数は少ないように感じられるかもしれませんが、1件あたりの平均相談時間は20分程度として、全部こなすのに丸一日を費やした勘定です。相談内容も下記のように、標本鑑定から鉱物物性、地質現象、地質情報の入手法まで多岐にわたりました。ここでは、類似の質問を束ね、内容によって4つにグルーピングしてご紹介します。回答を文章にすると大部になりますので、ここでは割愛します。一部は地質標本館ホームページのQ & Aコーナーに収録する予定です。

・鉱物・化石の鑑定サービス・・・セミプロ向け

- ①安倍川流域の転石鑑定：菊花石、ソーダ珪灰石
- ②大岳鉱山、青羽根鉱山、市井沢鉱山産鉱物の鑑定
- ③中伊豆郡下白岩の海生化石類の鑑定

・自由研究・総合学習に関わる相談・・・小学生およびそのご両親向け

- ④掛川層群の二枚貝化石の鑑定
- ⑤興津川河川敷の転石の鑑定：凝灰岩、泥岩、角礫岩
- ⑥天竜川河川敷の転石の鑑定：緑色片岩、チャート、泥岩、ホルンフェルス

・鉱物の物性と成因に関する質問・・・一般向け

- ⑦翡翠ひすいとは何か。翡翠はどんなところに行けるか。人類はなぜ翡翠を利用することができたのか

- ⑧ 鉱物の蛍光の原因は何か、蛍光現象について易しく解説した図書はないか
- ⑨ 球形に研磨加工した電気石を非破壊で同定できるか、電気石は健康によいか
- ・地質現象、鉱物資源、地震・火山防災、理科教育に関する質問・相談・・・一般向け
- ⑩ 伊豆半島の鉱物資源情報の入手方法は？
- ⑪ 太陽電池の材料は何か、珪石鉱床の成因は？ソーラーパネルの原理は？
- ⑫ 火山・溶岩・噴火タイプ・地質年代区分
- ⑬ 静岡市街地および美保半島の地盤はどうなっているか、東海地震の時に液状化する可能性はどうか
- ⑭ 安倍川や天竜川の河床れきの厚みはどれくらいあるか
- ⑮ 掛川の塩井戸の成因は何か、塩井戸が枯れる原因は何か
- ⑯ 藤枝市で丘陵の土壌の上に、大きくて硬い石が載っているところがある、この石はどこから来たと考えられるか
- ⑰ 地質情報展の展示パネルを教材として貸し出すことは可能か

岩石・鉱物鑑定は、ルーペ、小刀、磁石、塩酸などの簡単なツールを用いて行いました。担当者として自らの鑑定には自信がありますが、相談者から見て、私たちの用いた鑑定の根拠が果たしてわかりやすかったかどうか、鑑定を、職人芸としてではなく、

サイエンスの1ステップとして理解して頂きたいので、次回からは、実体顕微鏡やCCDカメラ付きのデジタル顕微鏡などを備えて、相談者自身がゆっくり観察できるような体制をとりたいと思います。鑑定の手ほどきをするための作業スペース、参照用資料を広げるスペースも確保したいところです。

相談コーナーでは、地質調査総合センターや地質標本館の活動内容を広報するとともに、今後そのサービスを受けるにはどうしたらよいか分かるように、既存のカラー刷りパンフレットを積み上げました。学校や各家庭にインターネットが普及している現状を考えると、今後は大型のディスプレイを置いて、地質標本館のホームページにアクセスして見せるのもよいと思います。

“岩石鉱物なんでも鑑定”ではなく、“地質なんでも相談”という間口の広いタイトルを掲げたこともあり、実に多様な質問が寄せられました。そのこと自体は好ましいことであり、最大限お答えしたいのですが、説明資料の準備が必ずしも十分ではなかったという恨みがあります。次回からは、標本鑑定の準備はもちろんとし、地質、都市地盤、地震・火山防災関連の相談に答えるための印刷資料の準備を怠らないようにしたいと思います。

AOKI Masahiro (2004) : Moving exhibition of The Geological Museum at The Geological exhibition 2003, Shizuoka.

<受付：2004年1月15日>